

費用負担を軽減するために知っておきたい

## 奨学金の種類や条件

近年、円安や物価の高騰などにより、留学費用の負担が増加しつつあります。少しでも負担を軽減するため、海外大学進学計画と同時に、奨学金の利用も検討すると良いでしょう。

奨学金はほとんどの場合、自ら申請し、審査を受け、その結果として受給できるかどうかが決まります。申請時期は進学する1年前など、早めに設定されていることが多く、受給のための条件はそれぞれ異なります。事前にしっかりと調べておくことが大切です。

### 奨学金の種類

奨学金には、以下の2種類があります。

- 給付型＝返済が不要な奨学金です。
- 貸与型＝返済が必要な奨学金です。

### 奨学金を支給する団体

様々な団体が奨学金を支給しています。

- 日本政府や民間団体
- 留学する大学
- 海外の政府、団体 など

それぞれ募集時期、条件、支給金額が異なります。また2つ以上の団体から奨学金を受けられる場合もあります。奨学金の応募時には、英語試験のスコアや高校の成績の提出が必要な場合がほとんどです。成績によって条件から外れることのないように、英語はもちろんのこと、その他の学校の授業にも積極的に取り組むことが大切です。

### 日本学生支援機構（略称 JASSO）の奨学金

奨学金を探す際、Webサイトを検索すると、様々な団体が出てきます。その中でも代表的なものが、独立行政法人日本学生支援機構（略称 JASSO）です。これは国による奨学金です。利用可能な奨学金制度を探している人は、まず JASSO の Web サイトで、応募条件等を確認するところから始めましょう。

#### 【日本学生支援機構（JASSO）が募集する海外留学奨学金】

- 海外留学支援制度（学部学位取得型）／給付型

[https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship\\_a/gakubu/index.html](https://www.jasso.go.jp/ryugaku/scholarship_a/gakubu/index.html)

- ・例年、募集要項は8月～頃に公開され、10月中旬に応募を締め切ります。
- ・奨学金月額（2024年度の例）：月12万円～32万円程度、4年間
- ・英語力・成績条件（2025年度の例）：  
TOEFL iBT80点、又はIELTS 6.0(Academic Module Overall Band Score)以上  
全履修科目の評定平均値が、5段階評価で3.7以上
- ・アメリカのコミュニティカレッジなど2年制大学については、現在までの募集要項では対象外。

●2024年度（募集終了）の結果

応募者数 305名 採用者数 100名

国別の選考結果（抜粋）

国	応募者数	採用者数
アメリカ	115名	41名
カナダ	34名	17名
イギリス	58名	19名
オーストラリア	43名	11名

（出典）<https://www.jasso.go.jp/about/press/jp2024030601.html>

※採用者数は年度により変動があります。

※その他に貸与型の奨学金もあります。

[https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kaigai/2shu\\_kaigai/about.html](https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kaigai/2shu_kaigai/about.html)

**留学先大学の奨学金**

家計状況により授業料が支払えない学生を対象とした、Need Based Scholarship と呼ばれる奨学金は、原則として留学生は対象外です※。

留学生は、出願の時点で、少なくとも初年度の費用が十分に用意できていることを、銀行預金残高などで証明することを求められます。

※例外的に、留学生にも適用される Need Based Scholarship がある大学もあります。

◆ハーバード大学の例

年間所得がUS\$85,000未満の家庭の場合、負担なし。

年間所得が\$85,000以上\$150,000の家庭の場合、負担は0～10%。

年間所得が\$150,000以上の家庭の場合、状況に応じて10%以上を負担。

一方、Merit Based Scholarship と呼ばれる、学業成績等に応じて大学から給付される奨学金は、留学生にもチャンスがあります。支給のシステムとして多いのは、入学後1年目の評価に応じ2年目の授業料から適用される形です。

また大学によっては出願の時点で基準を満たすと1年目から一定額の授業料減額・免除等のオファーがある場合もあります。

## 海外留学を支援する日本の企業や団体の奨学金

日本の企業や団体による主な奨学金を以下に紹介します。

### 【柳井正財団海外奨学金】

<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/>

平成29年に第一期奨学生募集が始まり、アメリカとイギリスのトップレベルの大学に学部留学する学生を、毎年40名程度支援しています。

#### ●第9期公募制（2025年秋入学）募集の場合：

米国の概ねトップ50に入る大学、および同等レベルの英国の8大学への留学が対象

#### ●選考スケジュール

公募制学校推薦海外大学奨学金（予約型）：（応募）7月中旬～8月中旬

（選考）9月

公募制海外大学奨学金（合格型）：（応募）12月末～

（選考）～翌4月末

### 【笹川平和財団スカラシップ】

<https://www.spf.org/scholarship/>

令和4年度から開始され、アメリカまたはイギリスの大学に学士号取得を目的に留学する人（財団の指定大学リストあり）を対象に募集します。実績として一期生35名、二期生28名に奨学金を支給しました。

#### ●選考スケジュール（2024年度募集要項の場合）

秋期応募期間：2024年7月25日～8月14日 15:00

春期応募期間：2024年12月以降

## 【経団連グローバル人材育成スカラーシップ】

<http://idc.disc.co.jp/keidanren/scholarship/>

将来グローバルなビジネス領域において活躍する意思を持った大学生に、1年間の海外留学の費用を支援します。応募できるのは対象校となっている国内の大学生に限定されています。例年、7月頃に翌年度の募集要項が発表されます。募集人員は20名です。

### ●応募期間

2024年7月11日～9月10日（2025年度生の場合）

その他の企業や、地域によっては地方自治体が支給するものもあります。応募の際には、支給条件に注意して、自分が当てはまるかどうかを確認してから応募しましょう。